

「コロナ」から思う日常生活への感謝 (メルマガ5月号)

残念ながら「緊急事態宣言」が延長される事態となりました。メルマガの読者の皆様も日々ご苦勞が絶えないことと思います。生涯学習財団の講座・イベント等の実施、及び生涯学習プラザの施設提供については、5月も引き続きこれまで同様の措置を取らせていただきます。皆様にはたいへん申し訳ない事態となりましたが、ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

先月号でも触れましたが、こうした事態において、懸命に私たちの命を守り生活を支えてくださっている方々のご努力、ご苦勞に感謝・敬意の気持ちでいっぱいになります。スーパーで買い物をして、宅配を受け取っても、いろいろな場面で日頃当たり前のように感じていたことが、実は多くの方々に支えられていたのだと、改めて気付かされます。

子供たちも、友達や先生と会うことができず、寂しい日々を重ねていることと思います。体を存分に動かさず、学習にも思うように取り組めず、苛立ちを覚えることもあるのではないのでしょうか。

先日、ある保護者の方からこうしたお話を伺いました。「学校の先生って、すごいと思いました。毎日、大勢の子供たちを相手に、勉強に興味を与えながら教えているって。今まで、正直そんなことを思ってもいませんでしたが、先生方に感謝ですね。」と、家庭での学習のご苦勞と重ねてお話されていました。厳しい事態から生まれた話ではありますが、日常の先生方の苦勞が認められたようで嬉しく思いました。

実際のところ、学校は休業であっても、居場所の確保、教育相談など、先生方は何とか子供たちの力になろうと様々に工夫をされています。近くの小杉小学校では、Zoomを使い「担任と児童がつながる日」を設けて、担任の先生と子供たちとの会話を創り出していました。

私が見学させていただいたのは、5年生と6年生で、この日が2回目のZoom利用とのことでした。先生やクラス仲間との久しぶり出合いで嬉しい時間だったと思います。それは、画面上の一人一人の子供の表情に本当に楽しそうな笑顔が見られたからです。先生が自己紹介する場面、子供が現在挑戦していることを紹介する場面、日頃の生活状況の悩みなどを話す場面など、それぞれ工夫して取り組まれていました。何とか子供とつながりを図ろうとする先生方の意欲、努力は素晴らしいと思いました。もちろん、Zoomに参加できなかった子供へは、先生が電話でフォローするなど配慮をしていると伺いました。

印象的なことは、子供たちはZoomでのやり取りだけでは満足できていないことです。「早く学校に行って校庭に寝ころびたい」「友だちと話したい」「委員会活動をしてみたい」「運動できていないから遊びたい」「一日も早く会いたい」など、通常の学校生活に期待しており、学校再開を心待ちにしていることでした。

子供たちにとって、オンラインではなく、直接的な人との触れ合いに勝るものはないでしょう。もちろん、大人にとってもそうです。

コロナ禍が終息し、当たり前の日常が一日も早く戻ることを祈念するばかりです。